

資料1 初島地区の津波対策（課題と対応策）（第1回～第3回地区協議会のまとめ）

【1・2・3グループ】

第4回地区協議会資料
（平成29年4月24日）

分類	H27. 3. 16地区協議会（第1回）	H27. 10. 5地区協議会（第2回）	H28. 4. 11地区協議会（第3回）	考えられる対応策
護岸整備		<ul style="list-style-type: none"> ・護岸整備は景観が悪くなる ・景観が重要 ・生活が大事 景観が重要 人間が逃げる ・基本現況です 景観の現状維持 ・現況のまま 景観上の理由により ・景観上の観点から今のままで、その代わりに避難経路を整備して欲しい ・7mの護岸は必要ないのではないか（理由）観光地としての景観保護、避難路の整備の方が現実的 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元との合意形成がとれれば、L1津波高さに対する防潮堤の整備を検討できる。 ・防潮堤の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レベル1津波による浸水被害を防ぐための護岸整備（かさ上げ）は当面実施しない。 → 宮の前護岸開口部陸間（浮上式）整備（H-1）
避難路 （がけ崩れ等）	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺の歩道のくずれ ・がけ崩れの心配 ・急傾斜地が崩れそう ・松の木がけくずれ ・BQセンター前のがけがくずれそう 			<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街、道がふさがってないか ・家屋（塀）の倒壊による道の閉鎖 ・倒壊家屋で道がふさがれている ・電柱の転倒により道路がふさがれる ・岩や木が崩れていないか ・倒木による道路不通 ・石垣等のくずれ ・電線や電柱の倒壊 ・避難地（公園）までに行く間の道路倒壊 ・避難路の安全性（崖・電柱・建物） ・道路の陥没 			<ul style="list-style-type: none"> ・交通途絶が予想される箇所の調査と対策
避難路	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路が坂道、階段が多い ・避難路が狭い（急勾配） ・観光客の避難路の欠如と誘導の難しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の整備を優先する ・避難経路の整備 ・避難路の整備、増設 <ol style="list-style-type: none"> ①②は既存の改修 ③新設 ④⑥ゆるやかな避難路の新設 ⑤周遊道路の延伸 林道の活用（仮道）富士急 ・避難道整備 障害物の撤去 ルートの明確化 ・海岸店舗とアールエイジア施設間の避難路の設置 ・ダイビングセンター風呂間に避難路 ・学校への避難路を再整備 ・現在壊れている階段（学校へ行く道）を補修してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 【短期】 ・既存通路の補修 ・避難路ルート・工法等の調査 【中期】 ・調査結果による避難路の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策拠点を結ぶ重要な道路について耐震性を確保 ・避難路の整備 <ul style="list-style-type: none"> → 避難路の整備（階段）新設（S-1-1） → 避難路改修・再整備（S-1-2） → 避難路改修・再整備（S-1-3） ・避難路の整備（観光客の避難路） <ul style="list-style-type: none"> → 避難路新設（S-1-4） → 避難路新設（S-1-5） → 避難路新設（林道の活用・延伸）（S-1-6） → 避難路改修（S-1-7）
避難路 （看板・路面標示）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の表示（すぐに暗くなる） ・避難場所が不明（判らない） ・逃げる経路がわからない ・私は、観光客で島の地理状況がわからず、どこへ避難して良いか迷っています ・高台への道がどこにあるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板整備 ・路面上に標高の表示をしたらどうか（一般観光客への意識化のため） ・看板（地図） 	<ul style="list-style-type: none"> 【短期】 ・避難誘導標識の整備（H28） ・路面標示は可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客にも容易に判別できる避難標識の整備 <ul style="list-style-type: none"> → 避難誘導看板の設置（S-2-1） → 避難方向路面標示（S-2-2） （モデル施工の結果による）

分類	H27. 3. 16地区協議会（第1回）	H27. 10. 5地区協議会（第2回）	H28. 4. 11地区協議会（第3回）	考えられる対応策
避難路（照明）	<ul style="list-style-type: none"> ・電線破断 ・停電により島内真っ暗 ・暗くなってないか（冬の暗さ、停電） ・暗く、足元が不安 ・暗い中で避難の誘導カンバンが見えるか？ ・足元が暗い（避難路の灯明） ・暗くなりかけているが明りは大丈夫か 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の外灯（誘導灯） ・電灯（非常灯）の整備 ・足元のみでもよいので明りがほしい。（初島公園まで） ・停電時でも点灯可能な外灯がほしい（増やしてほしい） 	<ul style="list-style-type: none"> 【短期】 ・LED防犯灯を市の補助制度を活用し町内会で設置 【中期】 ・避難路用ソーラーパネル街路灯の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の照明 → 街灯の新設及びLED化に対する補助(S-3-1) → 避難経路にソーラー式フットライト設置（初島公園まで）(S-3-2)
避難路（付属施設）		<ul style="list-style-type: none"> ・避難路にライフラフト（救命いかだ）、ライフジャケット設置 		
避難ビル		<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難ビルとして利用できる施設を確認する 		
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> ・避難先での過ごし方（寒さ・暗さ） ・冬場の防寒対策 ・ライフラインは生きていくのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所での食料の確保（輸送関係） ・水の確保 ・最大時3000人取残される観光客の水、食料他 ・災害時にも使用できる水の確保を（井戸など） 	<ul style="list-style-type: none"> 【短期】 ・拠点防災倉庫新設(H28)と資機材等整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点防災倉庫 → 倉庫新設、食料・資機材等の整備(S-4)
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の倒壊 ・建物の倒壊 ・古い家屋が倒壊する危険 ・建物が倒れていないか 			<ul style="list-style-type: none"> ・TOUKAI-0による支援
火災	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街で火災が発生 ・どこかで火災が発生していないか ・建物の火災等 ・火災（ホテルの高層火災） 			<ul style="list-style-type: none"> ・第9分団のL2浸水想定区域外移転 → 高台移転新築（一時避難場所兼用）(S-5)
情報連絡（安否確認）	<ul style="list-style-type: none"> ・近親者（家族）との連絡をどうするか（安否連絡） ・島内に何名いるのか ・外部との連絡は可能か ・島外への連絡が取れるか？ 			<ul style="list-style-type: none"> ・「災害用伝言ダイヤル171」の活用 ・家族間・近所であらかじめ取り決め
高齢者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・健常者以外の避難の仕方、高齢者、お年寄り、車いすなどの不自由な人の対応 ・後期高齢者の避難の難しさ。急斜面あるいは階段を登るため ・お年を召した方、体の不自由な方、坂道を上がれない ・高齢者の避難が遅くなる危険性 			
要支援者	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の欠如 ・要救助者の発見と措置 			
観光客・外国人対策	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客をどうしよう ・観光客の誘導 ・定期船乗船客の誘導 ・（観光客）熱海へ帰れなくなる ・島民以外の観光客等の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客に対して避難MAPを配布 ・外国語情報（案内併記） ・ハザードマップの外国語表示 		<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ作成済み ・ヘリポートの運用に必要な体制整備済み
情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・津波警報など、市のアナウンスの不備 ・震源地の情報がほしい ・高い山へ入ったが暗くなり、情報もなく心配です 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線が第2漁港に届かない ・島内設置 聞こえない場所がある ・非常放送 自動発報 サイレン 	<ul style="list-style-type: none"> 【短期】 ・デジタル移動系防災行政無線の活用（整備済） ・緊急速報メールの活用（整備済） 【中期】 ・デジタル同報系防災行政無線の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jアラート（全国瞬時警報システム）の活用 ・Jアラート緊急割込み放送システム（FM熱海湯河原）の導入 ・緊急速報メール（エリアメール）による情報配信 ・その他情報発信（メールマガジン、ケーブルテレビ、FMラジオ） ・同報無線のデジタル化
避難訓練		<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難訓練（昼、夜） 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・港が危ない、くずれたものが流れる ・重機の不足、技術者の不足 			<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン車、工作車等の道路啓開用資材の確保
		<ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりを考える（島、学校、ホテル） ・保育園の子どもたちが避難しやすいように町内会との連携 		